

# ふるさと歴史アラカルト

## 岩国と『花燃ゆ』ゆかりの人物 13

周布政之助  
(1823~1864年)

今回は高杉晋作や久坂玄瑞などにも慕われていた周布政之助を紹介します。

周布は文政6(1823)年、長州藩士の家に生まれました。早くに父を亡くしますが、藩校明倫館で学んだ後、

明倫館の都講(塾頭)を経て政務役となり、藩の政治に関わるようになります。

その後、謹慎と復帰を繰り返しながら、革新派として藩の政治を中心に動かし、高杉や久坂などの若い志士たちと一緒に奮闘しました。元治元(1864)年、7月19日に起きた

禁門の変と、その後に椋梨藤太を中心とした保守派が藩政府の実権を握つて江戸幕府への恭順を進めたことに責任を感じ、9月25日に自刃しています。

周布が岩国と深い関わりを持つのは、第一次長州出兵の時です。岩国藩主吉川経幹が、禁門の変に参加した三家老を処分し、朝廷や幕府に謝罪して恭順の意を示すよう長州藩主毛利敬親に進言したことを受け、敬親は経幹へ朝廷、幕府との仲立ちを依頼しますが、その

使者の1人が周布でした。

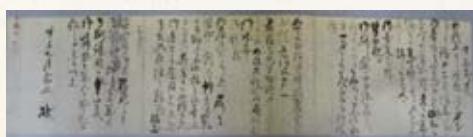
この経緯について、長州藩士兼重慎一の談話に次のように記されています。周布が「長

州藩には末家が3、4軒あるけれども、このような大難を引き受けたやり通す

人がいないように見える。情けないことをだ」と言つたのに対し、兼重が「そ

れはそうだが、まずは末家の誰かに一任しないといけない。私の考えでは吉川経幹殿のほかに方法はあるまい」と

言うと、周布は「なるほど、もつともだ。吉川公ならばまとまりがつくと思う」と述べています。また兼重が「吉川公をどういう人物と鑑定しているか?」と尋ねたところ、周布は「善良な人である。守成は得意だが、撥乱には乏しい」と答えていました。なお実際に経幹と会った際に周布は、「(藩政府責任者の1人として)入用であればこの首もいつでも差し出します」と述べ、経幹から短刀を一振与えられています。周布の自刃の際には、この短刀が使われたとも伝えられています。



▲『周布政之助遺書』(吉川史料館蔵)

### 岩国徵古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎④0452  
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

※1 長州藩家老の福原越後、國司信濃、益田右衛門介

※2 長州出兵のこと  
※3 創業し、成立した事業を守ること

※4 亂れた世をしづめ治めること

## 岩国市 人口・世帯

人口 140,200人【前月比 - 80人】 男性 66,420人 女性 73,780人

世帯 66,468世帯【前月比 + 13世帯】 ※外国人人口を含む(平成27年10月1日現在)

交通事故発生件数 9月分事故件数 39件(384件) 死者数 1人(3人) 傷者数 48人(440人)

※高速道路発生分を除く

※( )内は平成27年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎②1234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎⑨5016 FAX①3337